

2023年度 一般入試① 問題 (社会)



問題 次の文章をよく読んで、あとの問いに答えなさい。

伊能忠敬といえ、日本で最初に測量をして日本地図を作成した人物として、小学校の教科書に出てきます。しかし、①1821年に完成した《資料1》『大日本沿海輿地全図』(以下、伊能図)は、幕府が国防のために秘蔵とし、人々の目にふれることはありませんでした。一方、江戸時代の後半にもっとも社会に普及したとされるのは、長久保赤水が作成した《資料2》『改正日本輿地路程全図』(以下、赤水図)です。すでに作成されていた各地の地図を編集し、文献調査や、旅人や知人から得た情報をもとに20年以上かけて1779年に完成させました。伊能図の完成より40年以上も前に完成した赤水図は、最初は約4200の地名を記載し、その後少なくとも5回以上、情報を追加しながら出版されました。

明治時代になると、日本の公式の地図作成は②陸軍がおこなうようになります。ヨーロッパの近代的な測量技術を取り入れ作成した地図の一種で、等高線などの地形や土地利用などが記された地図を地形図と呼び、③大正時代には全国を掲載範囲としました。④戦後は、⑤日本の公的な機関である国土地理院が地形図作成を担い、衛星画像や航空写真、測量の結果をもとに、職員が建物の形をなぞったり、表現方法を工夫したりして地形図を作成し、約5～10年程度で更新しています。

インターネットが普及するようになると、ウェブサイト上の地図(以下、デジタル地図)も充実していきます。国土地理院は「地理院地図」という⑥日本全国の地形図のデジタル版をウェブ上で無料公開しています。また、現在と⑦昔の地形図を並べて表示できる「今昔マップ on the web」というサイトが研究者によって無料公開されています。かつては、大都市の大型書店や国土地理院で入手していた地形図を、いつでもウェブ上で他の情報と重ね合わせてみられるようになりました。

デジタル地図は、地図をみるだけでなく、一般の人々が地図の編集や作成、共有することも可能になりました。そうした中、注目されているのが、オープンストリートマップ(Open Street Map、以下、OSM)です。OSMは全世界対象の地図作成・編集プロジェクトで、「地図版のフリー百科事典」ともいわれます。OSMは世界中の誰もがインターネット上で参加することができ、利用費用が無料です(デジタル地図としては、Google社の「Google Map」などが有名ですが、多くの場合、商業利用には登録や費用が必要となります)。地図データの作成や編集をするアカウント登録数は、2021年5月時点で7500万を超えています。GPSで計測した位置情報や、公開されている衛星画像や航空写真をコンピュータ上でなぞって作成した地図データを

著作権の関係上、非表示にしています。

⑧世界中の人々が協力して提供、編集しています。確かに、OSMにはフリー百科事典と同様で、誤った情報や特定の立場の主張や差別的な表現が載ってしまうという問題もあります。しかし、長所が評価されて海外では多くの企業がOSMを利用しています。比較的身近な例ではSNSや位置情報ゲームの「ポケモンGO」があげられます。さらに、一般市民が地図作成に参加する⑨デジタル地図の特徴は災害時にも活かされ、クライシスマッピングという災害時に地図作成をおこなうボランティアまで存在します。

このように、近年では、紙の地図に加えてデジタル地図も普及してきました。また、自動車の自動運転やドローンの活用を見据え、人ではなく機械が使うための3Dの地図が求められる動きもあります。今後は、紙の地図とデジタル地図のどちらが主流になるか議論になるかもしれませんが、この2つはあくまで地図の表現上の違いであり、そのもととなる地図の作成や利用のされ方にこそ注目すべきなのです。ウェブ上で容易に大量の情報を取得し、それらを共有できるこれからの時代では、常に世界中の市民がもつ大量で多様な情報や知識を地図に表現し、利用しあえる「場」がより重要になっていくのかもしれない。

《資料1》伊能図の一部



(国土地理院ウェブサイト「古地図コレクション」<https://kochizu.gsi.go.jp/items/167?from=category.10,index-table> より)

著作権の関係上、非表示にしています。

問1. 下線部①に関連して、次の問いに答えなさい。

(1) 次の文章は、伊能図と赤水図を見た生徒と先生の会話です。

生徒：現代の地図とほとんど形が変わらない日本地図を作った伊能忠敬は本当にすごいですね。ぼくが当時の人だったら赤水図よりも伊能図の方を使いたいと思います。

先生：そうですね。ただし赤水図がすべての面で劣^{おと}っていたわけではないですよ。もし、当時伊能図が人々に公開されていたとしても、伊能図の方が赤水図よりも普及していたとは断言できません。

先生が波線部のように発言するのはなぜでしょうか。《資料1》・《資料2》を参考に、江戸時代後半の人々の暮らしの変化や、伊能図と比べたときの短所にもふれながら、赤水図の長所について150字以内で説明しなさい。

(2) 伊能たちの測量事業は、幕府の支援^{しえん}や許可があったとはいえ、必ずしも順調に進んだわけではありませんでした。伊能が記した次の文章から読み取れることがらとして、もっともふさわしいものを、下のア～エから1つ選び、記号で答えなさい。

「(村の代表者に) 村の石高^{こくだか} (米の取れ高) や家の数などを問いかけたが、『殿様^{とのさま} (領主) からは何の指図もない』
といて答えようとしな。また、山や島のことを問いかけたが、答えない。やっとな、これから測量をしようとする村の名前を聞いただけだった。」

(伊能忠敬『測量日記』第6巻をもとに、やさしく書き改めました)

ア. 村の代表者は、幕府が藩を支配している事実をよく知らなかった。そのため、幕府をうしろだてにした伊能たちであつても村の事情を教えたがらなかった。

イ. 藩の領地の問題は、その地域をおさめる藩に権限があつた。そのため、村の代表者は幕府をうしろだてにした伊能たちであつても村の事情を教えたがらなかった。

ウ. 村の代表者は、座などで話し合い自分たちの村は自分たちで守るという意識でいた。そのため、幕府であろうが、大名であろうが、村の事情を伊能たちに教えたがらなかった。

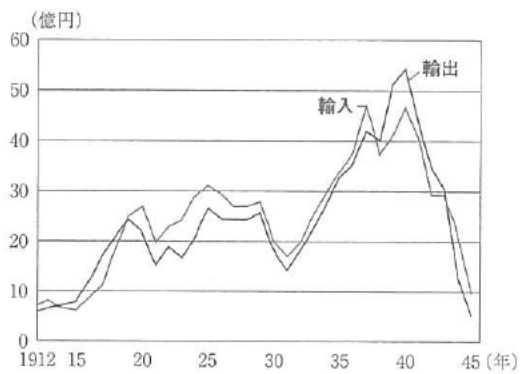
エ. 藩の土地からの年貢^{ねんぐ}の取り立ては、藩の家臣たちがおこなつた。そのため、村の代表者は自分たちの住む村の全体像をよく知らず、伊能たちに村の事情を教えられなかった。

問2. 下線部②に関連して、次の図版ア～オは、日本の歴史上の戦いに関するものです。その戦いを古い時代から新しい時代に順番に並べたとき、2番目と4番目にあたるものをそれぞれ選び、記号で答えなさい。

著作権の関係上、非表示にしています。

問3. 下線部③に関連して、《資料3》は1912年から1945年までの日本の輸出入額の変化を示すグラフです。このグラフをふまえて、日本の輸出入額の変化について述べた文として、適当なものを次のア～エから1つ選び、記号で答えなさい。

《資料3》

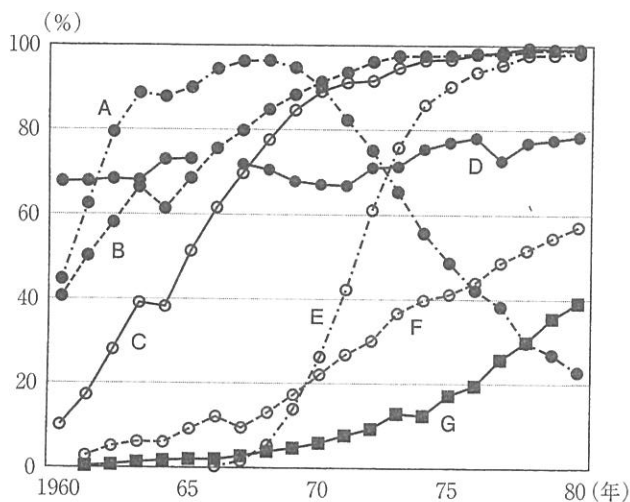


(『最新日本史図表 五訂版』(第一学習社)を修正)

- ア. 第一次世界大戦中、日本製品が海外で売れたことで、輸出額が輸入額を上回った。
- イ. 第一次世界大戦後、日本国内の産業が発展したことで、輸出額が輸入額を上回った。
- ウ. 満州事変の発生後、満州の工業力を手に入れたことで、日本の輸出額は輸入額を超えて急成長した。
- エ. 太平洋戦争の開始後、支配地域が拡大したことで、日本の貿易額は輸出・輸入ともに急成長した。

問4. 下線部④に関連して、《資料4》は、日本における1960年から1980年にかけての、エアコン（クーラー）・カラーテレビ・自転車・自動車・白黒テレビ・電気洗濯機・電気冷蔵庫のそれぞれの普及率の変化を示した図です。図とそれに関する説明を読み、図中のFにあてはまるものを下のア～キから1つ選び、記号で答えなさい。

《資料4》



・ A と B と C は「三種の神器」と呼ばれ、高度経済成長期に普及した。
 ・ F と G の 2022 年現在の普及率は、F が 80.6%、G が 91.8% である。

※すべて一般家庭を対象とした普及率で、企業などは含まない
 ※1960-1963年の統計は都市部のみ、1964年以降は全国を対象とした普及率
 ※Dの1966年はデータなし

(内閣府「消費動向調査」各年の統計より作成)

- ア. エアコン（クーラー） イ. カラーテレビ ウ. 自転車 エ. 自動車
 オ. 白黒テレビ カ. 電気洗濯機 キ. 電気冷蔵庫

問5. 下線部⑤に関連して、以下に示す日本国憲法の条文の空欄（ A ）にあてはまる公的な機関を漢字で答えなさい。

この憲法の改正は、〔中略〕、（ A ）が、これを発議し、国民に提案してその承認を経なければならない。

問6. 下線部⑥に関連して、次の表はある三つの県における中学校数（2022年）、鉄鋼業出荷額（2019年）、米の生産量（2021年）を示しており、表中のX～Zは、鹿児島県、千葉県、宮城県のいずれかです。X～Zにあてはまる県の組み合わせとして正しいものを、下のア～カから1つ選び、記号で答えなさい。

	X	Y	Z
中学校数	203	223	388
鉄鋼業出荷額（億円）	338	69	1,782
米の生産量（t）	353,400	89,100	277,800

(文部科学省「学校基本調査」、経済産業省「産業別統計表」、農林水産省「作物統計調査」より作成)

	ア	イ	ウ	エ	オ	カ
X	鹿児島県	鹿児島県	千葉県	千葉県	宮城県	宮城県
Y	千葉県	宮城県	鹿児島県	宮城県	鹿児島県	千葉県
Z	宮城県	千葉県	宮城県	鹿児島県	千葉県	鹿児島県

問7. 下線部⑦に関連して、8世紀に当時の朝廷が各地の土地や地形・自然、そこに暮らす人びとの生活に関する情報をまとめさせた書物を答えなさい。

問8. 下線部⑧に関連して、日本政府はさまざまな経験や技能をもつ日本人を発展途上国などに送り、現地の人びとの生活の改善や発展を手助けする活動をおこなっていますが、このような国際協力を支えている国内の機関としてもっとも適当なものを次のア～エから1つ選び、記号で答えなさい。

ア. J A イ. J A X A ウ. J I C A エ. J O C

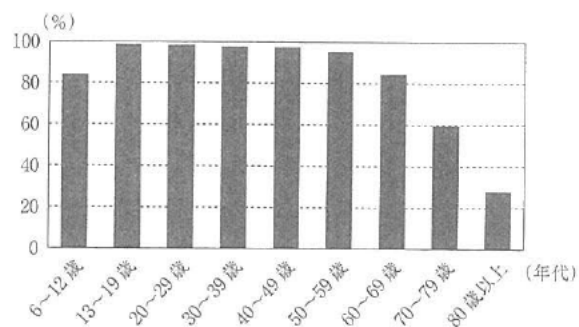
問9. 下線部⑨に関連して、次の問いに答えなさい。

(1) 2010年1月12日のハイチ大地震の際にはOSMが避難や救助、復旧などに大きく役立ちました。OSMが役立った理由について、本文と《資料5》を参考に、OSMの作成過程や特徴にふれながら、70字以内で説明しなさい。

著作権の関係上、非表示にしています。

(2) ハザードマップは、ウェブサイト上で閲覧することが増えてきましたが、紙で提供されることにも利点があるといわれています。紙のハザードマップがもつ長所を、本文と《資料6》・《資料7》・《資料8》をふまえて、130字以内で説明しなさい。

《資料6》インターネットの年代別の利用率



(総務省「通信利用動向調査(2021年)」より作成)

著作権の関係上、非表示にしています。

